

主催 | 日本学術会議・社会学委員会メディア文化研究分科会

日時 | 2010年1月30日[土] 13時-17時30分 [開場 12時30分]

場所 | 日本学術会議講堂 (港区六本木7-22-34 東京メトロ千代田線「乃木坂駅」5番出口徒歩1分)

グーグル等のグローバル企業によってあらゆる形態のコンテンツが市場システムに組み込まれていくなかで、学術書籍やドキュメンタリー等の映像作品、写真、ドラマ脚本等の必ずしも商業的利益にはつながらないメディア文化財の保存と活用に関する公的枠組みはいかにあるべきか。メディア文化財の著作権や所有権をめぐる問題から新しい知のプラットフォームまで、大学と図書館、博物館などの役割とその連携の仕組みについて議論したい。

## プログラム

コーディネーター | 遠藤薫 [学習院大学教授・学術会議第1部連携会員]

吉見俊哉 [東京大学教授・学術会議第1部連携会員]

13:00-13:10 主催者による趣旨説明

13:10-13:40 基調講演 | 長尾真 [国立国会図書館館長]

13:40-15:00 セッション1 | 世界のグーグル化と出版文化の公共性

報告1 | 龍澤武 [東アジア出版人会議理事・元平凡社編集局長]

報告2 | 名和小太郎 [情報セキュリティ大学院大学特別研究員]

ディスカッサント | 長尾真 [国立国会図書館館長] 上野千鶴子 [東京大学教授]

15:20-17:00 セッション2 | 映像アーカイブとメディア文化財の活用

報告1 | 岡島尚志 [国立近代美術館フィルムセンター主幹]

報告2 | 大路幹生 [NHK放送総局ライツ・アーカイブセンター長]

報告3 | テッサ・モーリス・スズキ [オーストラリア国立大学教授]

ディスカッサント | 伊藤守 [早稲田大学教授]

17:00-17:30 総括討論 | 提言に向けて

[長尾真/龍澤武/名和小太郎/岡島尚志/大路幹生/テッサ・モーリス・スズキ]



参加申し込み等 |

事前のお申し込みは必要ありません。定員300名、当日先着順、参加費は無料です。

後援 |

国立国会図書館(申請中) 東京国立近代美術館フィルムセンター(申請中) 法政大学  
 学習院大学 東京藝術大学 東京大学大学院情報学環  
 早稲田大学メディア・シティズンシップ研究所 日本社会情報学会(JASI)  
 日本社会情報学会(JSIS) 情報通信学会 社会学系コンソーシアム 日本社会学会  
 日本マス・コミュニケーション学会